

令和5年度 航空宇宙に関する活動等報告書



9月24日、北海道スペースポート（HOSPO）の取り組みについて町民の理解を深めようと、「たいき宇宙デー」を初めて開催しました。町民限定で「北海道スペースポートツアー」を実施し、黒川町長が案内役として JAXA の実験場や滑走路、ロケット発射場、インターステラテクノロジズ社の工場を見学しました。（上写真中央）

夕刻から開催した「講演会」では、インターステラテクノロジズ取締役の堀江貴文氏が登壇し、開発中の人工衛星搭載ロケット ZERO の進捗状況や宇宙産業ビジネスの可能性、町の優位性について講演されました。（写真左下）

3月11日、北海道スペースポート（HOSPO）にて、宇宙航空研究開発機構（JAXA）森田泰弘専任教授による LTP ロケットの弾道飛行試験を実施しました。（写真右下）



目次

1. 航空宇宙に関する出来事	1
2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）	4
3. 講演・イベント	10
4. PR 活動	14
5. 銀河連邦	15
6. 日本宇宙少年団（YAC）大樹分団	15

1. 航空宇宙に関する出来事

■町民限定「たいき宇宙デー」の開催

9月24日、北海道スペースポート（HOSPO）の取り組みについて町民の理解を深めようと、「たいき宇宙デー」を初めて開催しました。町民限定による「北海道スペースポートツアー」を午前と午後の2部に分けて実施し、夕方からは「講演会」を実施しました。

「北海道スペースポートツアー」では、約70人の町民に参加をいただき、黒川町長が案内役として施設概要や、これまで大樹町で行われた実験についての説明を行いました。参加された皆さんは、普段は立ち入り禁止区域になっているJAXAの実験場や滑走路、ロケット発射場、インターステラテクノロジズ社の工場を見学し、より一層「宇宙のまち」を身近に感じられたようでした。

「講演会」では、インターステラテクノロジズ取締役の堀江貴文氏が登壇し、開発中の人工衛星搭載ロケットZEROの進捗状況や宇宙産業ビジネスの可能性、町の優位性について講演されました。また、「大樹町の将来ビジョン、私たちの町は宇宙でどう変わるのか」と題して、黒川町長とインターステラテクノロジズ(株)稲川氏、(株)インフォステラ倉原氏、(株)釧路製作所羽苅氏、(株)日本旅行中島氏にご登壇いただき、企業進出による人口増、教育、観光分野との連携、衛星の宇宙輸送ビジネスによるわたしたちの生活への影響など、宇宙のまちづくりの展望について討論されました。



黒川町長が施設の案内



JAXA 格納庫前で記念撮影



堀江貴文氏の講演



パネルディスカッション

■「宇宙の映画館」の開催

1月7日、JAXA 大樹航空宇宙実験場の格納庫シャッターを日本最大級のスクリーンとして使用し、一夜限りのドライブインシアター「宇宙の映画館」を開催しました。

主に、大気球実験など宇宙関連実験で使用されている JAXA 格納庫を観光として活用するのは初の試みです。

縦 17 メートル幅 30 メートルのスクリーンに、JAXA やインターステラテクノロジズ社などの協力団体の PR 動画のほか、米国映画「アポロ 13」を上映しました。

当日は町内を含む十勝管内や札幌、東京など道内外の 94 名（45 台）にご来場いただきました。

巨大スクリーンで見る大迫力の映像を体験いただき、参加者からも大好評のイベントとなりました。



■ 東京建物株式会社との包括連携協定締結

SPACE COTAN 株式会社と東京建物株式会社との三者で、「宇宙版シリコンバレーの実現に向けた包括連携協定」を締結しました。

東京建物は、不動産デベロッパーとして都内での大規模再開発プロジェクトなど、町づくりにおいて幅広い知見と実績がある会社です。三者の強みや特徴を生かし、宇宙港や地域資源を活用した更なる価値創出や、まちづくりを進めるため協定締結に至りました。

東京建物と連携することで、HOSPO を核とした魅力的なまちづくりや北海道に航空宇宙産業の集積する「宇宙版シリコンバレー」の早期実現をめざします。

【協定締結日】令和 6 年 1 月 26 日



■ 三井物産株式会社との包括連携協定締結

SPACE COTAN 株式会社と三井物産株式会社北海道支社との三者で、「北海道スペースポートの更なる発展と地域の活性化に関する包括連携協定」を締結しました。

三井物産は、宇宙産業への豊富な知見と総合商社として実績のある会社です。三者の強みや特徴を活かし、HOSPO の更なる発展と宇宙のまちづくり、さらには脱炭素運屋の取り組み等幅広い分野で協力し、「宇宙版シリコンバレー」の早期実現と地域の経済活性化を目指します。

【協定締結日】令和 6 年 2 月 28 日



2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）

北海道スペースポートは令和5年4月より指定管理者としてSPACE COTAN株式会社を選定し、同社による管理運営に移管しました。民間企業のノウハウを活かして、施設利用者の満足度向上を図ります。また、観光客や教育旅行、企業視察の受け入れを強化します。

（1）実験利用実績

令和5年度の大樹町多目的航空公園（JAXA大樹実験場、ISTロケット射場（旧防衛省実験場）を含む）の利用実績を下表にまとめました。

今年度は、20団体により42件の実験等が行われ、延べ23,167人が利用しました。

町では、実験や視察などによる宿泊や食事、レンタカー、航空運賃などの滞在に関わる費用を試算した結果、昨年度の約5億7,900万円から前年比約210%の約12億5,400万円の経済効果があったものと推測しています。

年度	利用実績				推定経済効果
	利用団体数	利用件数	利用延べ人数	延利用日数※	
令和5年	20	42件	23,167人	597日	約12億5,400万円
令和4年	19	45件	20,283人	664日	約5億7,900万円
令和3年	16	30件	12,635人	315日	約3億5,900万円
令和2年	9	16件	7,855人	188日	約2億9,400万円
令和1年	9	26件	6,829人	330日	約3億5,700万円
平成30年	11	19件	5,729人	185日	約2億3,300万円

※延利用日数には、ISTロケット射場の利用日数は含まれておりません

（2）宇宙交流センターSORA 来場者数

宇宙交流センターSORAは、4月27日から10月31日の間、毎日開館しました。

令和2年度から引き続き展示物について解説するガイドを常駐させたことから、来場者の満足度の向上を図ることができました。

今年度の来場者数は9,498人（うち、団体視察等69件2,327人）となりました。

年度	来場者数 ※視察人数含む	視察件数	視察人数
令和5年	9,498人	69件	2,327人
令和4年	3,734人	40件	950人
令和3年	880人	15件	404人
令和2年	1,102人	10件	358人
令和1年	23,421人	65件	1,297人
平成30年	5,777人	48件	1,147人

(3) 航空宇宙関連実験

■ 小型飛行ロボット自律飛行制御実験

実施団体：電気通信大学情報理工学部 田中研究室

実験期間：4月21日～5月14日、8月16日～9月9日

実験内容：近年、災害発生時などの極限環境の中でも空からの活用が期待できる無人航空(Unmanned Aerial Vehicle)が注目されています。同研究室では、スマートにミッションを遂行する自律飛行ロボット「スマート飛行体」の開発に関する研究を行っており、平成23年より大樹町で実験を行っています。



今年度も引き続き、低速・低高度でも安全に飛行可能な「パラグライダー型 UAV」、低コスト高パフォーマンスな「固定翼型 UAV」、ホバリング飛行が可能な「垂直離着陸無人機 VTOL」の3種類の機体を使用し、当研究室で設計した制御系の検証や自動飛行用ナビゲーションシステムの検証、上空からの情報収集システムの検証などを行いました。

■ HOSPO フル加速体験の実験

実施団体：トランサム株式会社

実施期間：6月10日

実験内容：トランサム株式会社による HOSPO フル加速体験の実験が行われました。

滑走路を全面使用して、スーパーカーによるフル加速体験を実施するため、試験走行及び安全確認を行いました。



■ JAXA 大気球実験

実施団体：JAXA 大気球実験グループ

実施期間：6月16日から8月21日

実験内容：今年度の大気球実験では、「火星探査用飛行機の高高度飛行試験 (MABE2)」と「GRAMS 液体アルゴン放射線検出器の気球搭載試験」が行われ、どちらの実験も無事終了し、海上に着水した大気球は、大樹町の漁業者のみなさんの協力を得て回収されました。

また、小型気球実験では、「新型大気圏突入カプセルの飛行試験 (RERA-2・RERA-3)」が行われ、無事に終了しましたが、当初予定していた「火星飛行機用プロペラ推進器高高度試験 (HIGHPER)」は、実験機器に不具合があり、実験計画期間中に解消できる見込みがなくなったため、今年度の実施が見送りとなりました。

■ 小型無人機の自律飛行・ミッション性能向上技術の研究

実施団体：東海大学

実施期間：9月4日から9月9日

実験内容：空中にレーザー光を伝送して行う通信と、通信経路周辺の大気揺らぎの計測実験を実施しました。

本実験は、学術変革領域研究(A)「散乱・揺らぎ場の包括的理解と透視の科学（散乱透視学）」における「A03-7 空間光伝搬通信における散乱・揺らぎ計測と制御」の一環となる活動です。

実験の成果は、将来の高速通信の技術と、解明・克服できていない散乱揺らぎ場の理解に貢献します。



©東海大学

■ 空中風力発電のための風制御試験

実施団体：JAXA 航空技術部門

実施期間：9月25日から9月29日

実験内容：地球温暖化や不安定な国際情勢から、エネルギーの自給自足は日本国内の最重要課題の一つであると言えます。また、高高度における良好な風力を、日本国内で利用可能なエネルギーに変換できれば、その課題を解決する手段の一つになり得ます。

このような背景から、欧米を中心として、索と飛行体、いわゆる風による空中風力発電の研究が進められていますが、欧米で開発の進む方式は、日本国内で必ずしも利用可能な方式ではありません。そこで本研究では、日本国内の「社会受容性」、「気象」、「地形」を考慮した空中風力発電の開発を行い、日本国内において有効な発電手段となり得る空中風力発電の技術開発のため、本試験において空中風力発電の鍵技術である風の自動制御手法の獲得を目的とし、風制御ユニットによる風の飛行試験を行いました。具体的には、JAXA ハンドリングエリア及び滑走路を、トラック荷台に風制御ユニット及びウインチを載せ走行し、風を牽引しながら制御機構の動作及び制御方法を構築するとともに、索に働く張力及びユニットに働く力を計測しました。

■ 航空機用新装備品の通信実験

実施団体：室蘭工業大学

実施期間：11月2日から11月9日

実験内容：室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターで研究・開発中の小型超音速飛行実験機「オオワシ」の空力特性把握のための 1/3 スケール縮小機体の車載走行試験を実施しました。

本試験では、オオワシの空力地面効果（地面近くでの空力特性の変化）を明らかにするために、種々の機体高さ及びピッチ角において 1/3 スケール縮小機体にはたらく空気力を計測し、さらに、空気流が自動車車体を避けて流れることによる空力変化を推定するために、種々の高さおよび前後位置において空気流傾斜角の計測を行いました。時の情報収集、捜索救難、警備警戒、報道など多岐にわたり活用されることが期待されています。



©室蘭工業大学

■ MMX-SRC ヘリコプタからの投下実験

実施団体：北海道科学大学

実施期間：11月11日から11月12日

実験内容：北海道科学大学による Balloon Kite の低高度係留実験が行われました。

自動車で行き、Balloon Kite の低高度係留することに成功しました。

今後は、強度等を改良して来年度に実験を行う予定です。



■ ハイブリッドロケット打上実験

実施機関：東海大学学生プロジェクト

実験期間：3月4日～3月6日

実験内容：東海大学の学生ロケットプロジェクトが、美成地区にてハイブリッドロケットの打上げ実験を行いました。

東海大学は、2004年から大樹町で実験を行っており、今回で29機目のロケット打上げとなりました。

打上げは無事成功し、高度456mまで達しその後、パラシュートを開傘させ射点から北北東493mの地点に落下、機体を回収しました。

今回の実験では打上げた機体を損傷なく回収するためのパラシュート2段階放出機構を実証し、パラシュート開傘時の機体への衝撃に関するデータを取得しました。

最終目標である高度100km以上の機体開発に向けた貴重なデータを得ることができました。



■ LTP ロケット打ち上げ実験

実施団体：JAXA 森田泰弘専任教授

実施期間：3月15日から3月17日

実験内容：JAXA 森田泰弘専任教授が(株)植松電機に打ち上げ業務を委託し、LTP ロケットの弾道飛行試験を実施しました。

LTP ロケットは、固体ロケット量産化技術の獲得を目指して開発されている革新固体ロケット燃料を使用した小型固体ロケットで、本試験が3回目の弾道飛行試験となりました。

本試験では、LTP がロケット打上げの加速度環境下で正常に燃焼することを確認しました。

結果、予定通り最大高度(5,000m)付近でパラシュートを開傘、機体データを取得しました。



3. 講演会・イベント

■北海道スペースポートトークイベント開催

6月1日、HOSPO SUPPORTERS 限定イベント「宇宙港プロジェクト交流会 宇宙のまちづくりと明日の宇宙旅行を語る」を帯広市の北海道ホテルにて開催しました。

HOSPO SUPPORTERS は、北海道スペースポートへの寄附企業や、プロジェクトを応援する企業と開設したコミュニティです。

今回のイベントでは、黒川町長の開会の挨拶より始まり、SPACE COTAN（株）小田切社長による北海道スペースポートの事業報告、サポーターズ同士の交流会を実施したほか、気球による宇宙旅行を目指す（株）岩谷技研の岩谷社長にもご登壇いただき、宇宙カプセルの開発状況などもお話いただきました。

当日は、46社76名もの方々にご参加いただき、更なるプロジェクトへの支援やサポーター同士の交流が深まり、プロジェクトへの共感が広がるイベントとなりました。



■大樹エアロスペーススクール 2023

この夏、全国にある JAXA の事業所 3 か所（大樹町、宮城県角田市、東京都調布市）ごとに、高校生がチームで協力し「宇宙航空ミッション」に取り組むプログラム「JAXA エアロスペーススクール 2023」が開催されました。

このうち大樹町では北海道スペースポート（HOSPO）を会場として、8月6日から9日の間、様々な活動を実施しました。

全国から参加した高校生 16 名は、6日に宇宙交流センターSORA で開校式を行った後、町内の航空宇宙関連施設の見学、モデルロケットの打上げ実験、SPACE COTAN や十勝農業協同組合連合会の講義、エム・エス・ケー農業機械によるロボット農機乗車体験、ズコーシャによるドローン操縦体験等、大樹・十勝ならではのプログラムを学習しました。



■ 企業版ふるさと納税寄附金 感謝状贈呈式開催

【第五回】

10月13日、北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）内滑走路にて、大樹町に対して令和4年10月から令和5年9月までに企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業を対象として、感謝状の贈呈式を開催しました。参加企業は下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。
＜（株）中山組、三洋興熱（株）、（株）北洋銀行、カナエル（株）、（株）日本旅行、（株）日本旅行北海道、片桐機械（株）、（株）セイコーマート、東光舗道（株）、（株）アルプス技研、岩田地崎建設（株）、ALSOK北海道（株）、Nickel Lab.合同会社、（株）SPEC、エム・エス・ケー農業機械（株）、川田工業（株）、（株）カルテック、帯広ガス（株）、スマートインプリメント（株）、宮坂建設工業（株）、（株）カナモト、（株）コスモテック、（株）有我工業所、（株）ルック・ヒライ、（株）タチノ、セコム（株）、伊藤組土建（株）、（株）キグチテクニクス、（株）構造計画研究所、三伸工業（株）、北王コンサルタント（株）、SMFLレンタル（株）、（株）三技協＞



なお、当日の参加が叶わず、後日の贈呈となった企業は下記のとおりとなります（以下寄附受領日順）。
＜（株）ドゥ・クリエーション、四方工業（株）、（株）共済レンテム、三共電気工業（株）、（株）アニマルメロディカ、ハイテクインター株式会社（株）、日鉄テクノロジー（株）、（株）圓窓、B.CRISP 合同者、（株）メトロール、（株）アミノアップ、フォーブス（株）、SPEDi（株）、（株）旭商工社、（株）大日製作所、三晃化学（株）、国策機工（株）、（株）サンケミ、旭イノベックス（株）、SOC（株）、エア・ウォーター北海道（株）、（株）フコク、（株）IHI エアロスペース、（株）荏原製作所、（株）イー・バード、（株）十勝毎日新聞社、合同会社ガバメントアフェアーズ・パートナーズ、Credita（株）、SBS ロジコム（株）、ヒガノ（株）他六社＞

■ ほっかいどう応援セミナー

11月1日、東京都で開催された「ほっかいどう応援セミナー」に参加しました。

ほっかいどう応援セミナーは、企業や団体を対象に、知事や市町村長が北海道の魅力の発信や応援を求める具体的な取り組みをPRする場として北海道が開催しているものです。

当日は、黒川町長が登壇し、大樹町の魅力や北海道スペースポートプロジェクトを中心に宇宙のまちづくりに関して説明し、企業版ふるさと納税の寄附を呼びかけました。

また、PRブースも出展し、多く方に立ち寄っていただき、町の魅力を周知することができました。



■北海道宇宙サミット 2023 開催

10月12日に、帯広市にて北海道宇宙サミット 2023 が開催されました。

3回目の開催となる今年は、「宇宙を動かせ。」をメインテーマに設定し、宇宙×一次産業、宇宙×地方創生など、身近な話題をトークテーマとし、宇宙ビジネスが私たちの生活や仕事をどう変えていくのか、より具体的な未来像について議論しました。

宇宙分野の開発者や専門家に加え、農業分野の関係者やアナウンサーなど多種多様な 29 人が登壇し、将来の宇宙輸送ビジネスの展望や、衛星データの農林漁業での活用方法など様々な切り口で意見を交わしました。

当日は現地に約 1,100 人が参加し、昨年の 700 名を上回ったほか、オンライン参加でも 2,200 名が参加し、現地・オンラインを含む参加者は 3,300 名となり、非常に注目度の高いイベントとなりました。



■「ロケット発射疑似体験」の開催

2月4日、大樹町生涯学習センターで「ロケット発射疑似体験」を開催しました。

インターステラテクノロジズ社が大樹町で打上げた「MOMO 初号機」から「MOMO7 号機」までの発射映像とリンクして、大音量で迫力のあるロケット発射が体験できます。

参加者からは、「大樹町で MOMO7 号機まで打上げられているのは知らなかった」、「地球がきれいに見えた」など大好評のイベントとなりました。



■「VR 宇宙旅行体験」の開催

1月13日から2月12日まで、道の駅コスモール大樹にて、「VR 宇宙旅行体験」を開催しました。

VR ゴーグルを装着することで、スペースバルーンに搭乗し、宇宙空間に到達するまでの小旅行を約 6 分半の高精細 8K360 度映像で体験できます。

また、今回の映像は、映像制作技術サービス事業などを営む「IMAGICA グループ」が製作しました。

期間中の 1 カ月間で、老若男女問わず、約 300 名の方に宇宙旅行を体験いただきました。



4. PR 活動

大樹町や北海道の航空宇宙に関する取り組みを PR するため、道内外の航空宇宙関係の展示会やイベントに出展しました。北海道宇宙科学技術創成センター「HASTIC」や SPACE COTAN(株)、北海道等と共同で出展し、パネルやポスター、実験機材等の展示、映像放映、パンフレット等の資料配布を行いました。

■ 第 35 回国際農業機械展 in 帯広

展示会場：帯広市 北愛国交流広場

開催期間：7 月 6 日から 10 日

来場者数：155,000 人



■ 北洋銀行「ものづくりサステナフェア 2023」

展示会場：アクセスサッポロ（札幌市）

開催期間：7 月 20 日

来場者数：約 4,000 人

出展者数：136 団体・企業

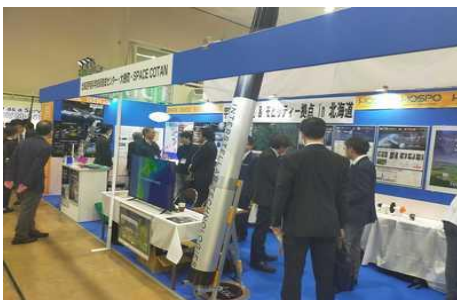


■ ビジネス EXPO

展示会場：アクセス札幌（札幌市）

開催期間：11 月 9 日から 10 日

来場者数：22,942 人



■ 2024 国際宇宙産業展 ISIEEX

展示会場：東京ビッグサイト（東京都）

開催期間：2 月 20 日から 22 日

来場者数：20,436 人



5. 銀河連邦

銀河連邦とは、JAXAの研究施設が縁で交流を始めた5市2町がユーモアとパロディの精神で組織する連邦国家です。銀河連邦では、子どもたちの留学交流事業をはじめ、経済交流、銀河連邦フォーラムの開催などを通じて友好を深めているほか、災害時の相互応援協定を締結しています。

■ 第50回相模原市民若葉まつり

5月13日、14日に神奈川県相模原市で開催された「第50回相模原市民若葉まつり 銀河連邦物産展」に銀河連邦タイキ共和国として出展しました。

タイキ共和国は、応募のあった町内事業者「まるみ工房」と「和牛道」の特産品の販売を行いました。

「まるみ工房」は、いか焼き・茹でつぐ串、「和牛道」は、牛もつ煮・牛タン串・ステーキ串、町は、大樹漁業協同組合の鮭とば・つぐを販売しました。



大変好評いただき、たくさんの方々に北海道の味覚をお届けする事ができました。

■ こども留学交流事業

8月8日から10日の3日間、銀河連邦各共和国の小学5年生28名がタイキ共和国に集まり、町の魅力や宇宙産業について学びました。

参加した生徒たちは、はじめは緊張していましたが、ピザづくり体験や宇宙施設の見学を通し徐々に打ち解けていき、最終日にはみんな仲良くなりました。

今回の交流を通じて友情の輪を広げるとともに、各共和国への理解と関心を深めることができました。



■ 第46回柏林公園まつり

9月17日、大樹町にて開催された柏林公園まつりで銀河連邦物産展を開催しました。

普段、大樹町内では購入することができないサガミハラ共和国、ノシロ共和国、サンリクオオフナト共和国、サク共和国、カクダ共和国、ウチノウラキモツキ共和国の6共和国の特産品を販売しました。



■ 銀河連邦フォーラム

11月10日から11日、サク共和国で開催された「銀河連邦フォーラム」に参加しました。

各銀河連邦共和国との情報交換を行ったほか、佐久市にあるJAXAの深宇宙探査機との通信を行う「美笹深宇宙探査用地上局と臼田宇宙空間観測所」を視察しました。

また、佐久市農業祭へも参加し、イベントのじゃんけん大会で大樹町の特産品を景品として贈呈したほか、銀河連邦物産展で大樹町の特産品を販売し、町の魅力をPRしました。

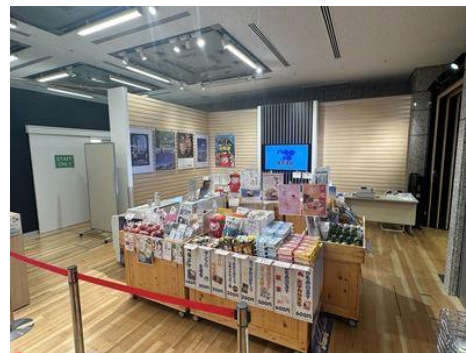


■ 銀河連邦 PR 物産展 in 都庁

1月11日、12日に東京都庁で開催された「銀河連邦 PR 物産展」に出展しました。

都庁の全国観光PRコーナーを会場に、銀河連邦7市町の観光PRやパンフレットの配布のほか、各共和国の特産品を販売しました。タイキ共和国からはチーズとホエー豚を販売しました。

観光客や都庁の職員など多くの方に立ち寄りいただき、町の名産品をPRすることができました。



6. 日本宇宙少年団（YAC）大樹分団

■ 総会、分団活動

5月20日に宇宙少年団（YAC）大樹分団総会を宇宙交流センター-SORA 研修室にて行いました。

総会では、これまで分団長を務めた福岡孝道さんが顧問として就任し、新たに分団長として齊藤雅さんが就任しました。

また、分団活動として「天体望遠鏡」を作成したほか、分団員懇親会として、バーベキューを行いました。



■ 分団活動「風見鶏とかさ袋ロケットを作ってみよう」

6月21日に大樹町福祉センターでかさ袋ロケット製作と風見鶏製作教室を開催しました。

風見鶏では、風上を把握するために使用されることを理解してもらいました。

かさ袋ロケットでは、尾翼をつけない機体と尾翼をつけた機体を作成し、どちらが安定して飛ばせるかを実証しました。



■ 研修旅行 in 苫小牧

7月28日に研修旅行を行い、団員7人、保護者3人、引率2人の計12人で苫小牧市に向かいました。

苫小牧市内のミール館と科学センターを見学し、宇宙ステーション「ミール」やプラネタリウムで「夏の星座」について学びました。

様々な体験を通して宇宙や科学について理解を深めることができました。



■ ペットボトルロケット製作教室

7月26日に大樹町福祉センターでペットボトルロケット製作教室を開催しました。

町内外から10名の参加者が集まり、8月6日に行われるペットボトルロケットコンテストに向けて、ロケットを製作しました。

参加した子どもたちはお父さんお母さんと協力しながらオリジナルのペットボトルロケットを完成させました。



■ 第23回ペットボトルロケットコンテスト in 大樹

8月6日に行われた「歴舟川清流まつり」のイベントとして「第23回ペットボトルコンテスト in 大樹」が開催されました。

今年は規定の部16名・自由の部15名の計31名が出場し、参加者はこの日のために作成した機体で飛距離を競い合い、子供から大人まで白熱した戦いを繰り広げました。

規定の部では、104.12mを記録した松井 正澄さん、自由の部では、142.68mを記録した杉山 太洋さんが優勝しました。

デザインコンテストでは、個性豊かな機体が出揃い、堀尾 宗平さんが最優秀賞に輝きました。

また、昨年に引き続き巨大ペットボトルロケットのギネス記録をもつ翔和学園が3m程のペットボトルロケットを打ち上げ、会場を盛り上げました。



■ 2023 スペースイラストコンテスト

9月17日、柏林公園まつりステージ上で「2023 スペースイラストコンテスト」の表彰式を行いました。

今回は147作品の応募の中から、入選された11名のうち、10名の方が出席され、日本宇宙少年団大樹分団長齊藤 雅 氏から、表彰状・副賞・作品写真が贈呈されました。



■分団活動「モデルロケットを飛ばそう」

10月29日に北海道スペースポート（多目的航空公園）で、モデルロケットの製作と打上げを行いました。

宇宙交流センターSORAにてモデルロケットの製作した後、滑走路にて打上げを行いました。

打上げではどれだけ射点に近づけるかを団員同士で競い合いました。



■分団活動「プラネタリウム見学とスカイウイング製作」

12月17日に帯広市児童会館で、プラネタリウム見学とスカイウイング製作を行いました。

プラネタリウムでは、帯広市の夜空から見える冬の大きな三角形「オリオン座・シリウス座・プロキオン座」と12星座について学びました。

スカイウイング製作では、帯広市児童会館の職員を講師に迎えて、製作と打上げを行いました。



■分団活動「色々なペーパークラフトを作ってみよう」

3月31日に宇宙交流センターSORA 研修室で、「ペンシルロケット」、「ホワイトウイングス」、「成層圏プラットフォーム」、「地球儀貯金箱」の4種類のペーパークラフトを作成しました。

作成前には、実物がどんなものだったのかを学び、作成後は実際にペンシルロケットとホワイトウイングスを飛ばしてみました。



発 行：大樹町役場企画商工課航空宇宙推進室
所在地：北海道広尾郡大樹町東本通 33 番地